

大島地区不登校等対策研修会

趣 旨

不登校等の未然防止，早期発見・早期対応のために大島地区の現状と基本的な考え方を学ぶことで，生徒指導担当者等の資質を高めるとともに，各学校での対応の充実に資する。

参加者

小中学校の生徒指導主任（係），養護教諭，SC，SSW，市町村教育委員会指導主事等

実施日

8月4日(火) 大島支庁奄美会館

8月27日(木) 徳之島町生涯学習センター

講 話

「不登校に対する効果的な対応と家庭支援の在り方」

鹿児島大学教職大学院 有倉 已幸 教授



不登校の中心感情は「不安」

- 不安を低めようと他者との関わりを避ける。→不登校
- 本人の不安（他者からの拒絶や孤立、暴力、及び失敗に対する責めなど）を把握し、「あなたを責めない」というメッセージを送ることで基本的な信頼関係を構築する。
- 他者への信頼感とは「これから先，他者と関わることで，自分に悪い結果が起こらないという期待」である。
- 共感的理解に努め，基本的に意見やアドバイスをしない。
- 関わり方のチャンネル数を増やす。（チーム学校で!）

演 習

「登校に向けた効果的な働き掛け」（ロールプレイ）



保護者との関わり方の基本的姿勢

カウンセリング的関わり

- ・ 共感的理解に終始する。
- ・ 意見やアドバイスをしない。
- ・ 次の相談につなげる。

保護者の見方を否定しない

- ・ 多様な視点から理解する。
- ・ 間違っていると思わない。
- ・ 家庭では行動が変わる。

保護者との関わり方の留意点

- 一人で対応しない。
- 関わりを絶たない。（定期的なメッセージが効果的）
- 憶測を排除し，違和感を大切にす。
- 教育委員会やSC等を積極的に活用する。（同一歩調で）

感 想

- ・ 保護者役，本人役をすることで，身構える気持ちが分かった。明るい雰囲気をつくるのが基本となる感じた。
- ・ 教師の思いで話を進めること自体がマイナスになる。相手が見えている風景を感じて，合わせられるようにしたい。
- ・ 雑談から入ろうとしても話題がないと始まらない。日頃のコミュニケーションが大切であると感じた。